

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設名等

名称：	強羅暁の星園
施設長氏名：	佐々木 茂雄
定員：	50名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

③実施調査日

開始日	2013/11/27
評価結果確定日	2014/2/19

④総評

<p>1. 職員と子どもたちのチームワーク 強羅暁の星園の基本理念に「日々の生活の中で児童の一人の人間としての権利を守り、児童が互いにその人格を尊重しあいながら将来の自立に向けて生活することができるよう、またひとりの社会人として成長するように養育・支援する」ことを掲げ、子どもたちが安心して、落ち着いた生活を送ることができる環境を整えている。子どもたちは男子棟3部屋、女子棟3部屋、幼児棟2部屋に分かれて生活している。職員の人員配置数等、厳しい状況の中で、職員間の連携とチームワークの良さを活かし、担当の棟を超えてフォローし合い、職員の「明るさ、元気、チームワーク」を子どもたちに伝えている。子どもたちは、中舎制の縦割りの生活の中で、年齢の上の子どもからルールなどを学び、明るくのびのびと成長している。職員のチームワークの良さばかりでなく、子どもたちのチームワークの良さが自慢である。</p> <p>2. 地域の一員としての活動 「地域社会なくして福祉施設はありえない」という法人の理念のもと、強羅暁の星園の職員が、地域の子ども会や小・中学校のPTAの役員を担い、地域活動に積極的に参加している。園の行事に地域や近隣のボランティアの協力を得るとともに、子どもたちも、地域の子ども会行事やレクリエーション大会に多く参加し、日曜日には地域の清掃活動などを行っている。子どもの少ない地域の特性に配慮して、特別な相談窓口は設けず、日頃の地域との関わりの中で、保護者の相談を受け、地域の子育てニーズに対応している。</p>
--

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

公益社団法人神奈川県介護福祉士会の第三者総括責任者の方から「第三者評価事業では、ただ施設を評価するだけでなく、職員の思いも聞き取った上で、形にしていきたい」という温かいお言葉を頂き、職員一同、感銘を受け今回は依頼をさせて頂きました。そのお言葉通り、訪問調査の際は時間いっぱい、親身になって職員の思いに耳を傾けて下さり、事前に職員全員で行った自己評価の内容よりも強羅暁の星園の良い部分を沢山、教えて頂いた第三者評価となりました。課題として挙げて頂いた内容については、職員間でもよく話題に出る内容で、更なる向上を目指し邁進していきたい所存です。強羅の地の利を生かし、古き良き中舎制の児童養護施設の良さを存分に生かしながら、これからのあるべき児童養護施設の姿を模索していきたいと思っております。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は心理学的知見や経験によって培われた感性に基づく深い洞察力によって子どもの理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに問題行動等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解している。	○
②	基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a

	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人一人の基本的欲求を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
③	<p>子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、一人の職員が把握、援助しなければならない子どもの数が、一般家庭と比して極端に多くならないよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
④	<p>発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発達状況に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて特別支援教育を受ける機会を保障している。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域の資源の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、必要な情報交換ができている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○

	<p>⑤ 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。</p> <p>□職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。</p> <p>□普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。</p> <p>□施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。</p> <p>□子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。</p> <p>□地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。</p> <p>□施設のルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
--	---	--

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(1) 子どもたちの生育歴、生活歴に配慮した愛情ある対応

児童指導員や保育士など、直接子どもに関わる職員は、心理療法担当職員の子どもの面接やセラピーなどの結果を共有し、子どもたちの抱える課題を十分に把握しながら、日々の生活を支援している。心理療法担当職員の「心理情報提供書」をもとに、職員間で話し合いを密に行い、これまでの生活歴や日常生活の様子を確認しながら、児童相談所のケースワーカーと連携を取って支援している。保護者との別れを経験している子どもたちの課題をしっかりと受け止め、理解した上で、深い愛情をもって対応するよう努めている。職員は、常に子どもの側において、思いや希望を聴くことを大切にしている。

(2) 家庭的な雰囲気の中での生活

未就学児11名、小学生19名、中学生10名、高校生6名(うち専門学校への進学予定者1名)の子どもたちが、共に生活を送っている。園の建物は歴史があり、子どもたちの部屋は個室ではなく3~4人の部屋がほとんどだが、ベッド回りなど、プライバシーが確保できるよう工夫している。共有スペースのリビングルームには、本やおもちゃなどを置き、子どもたちは一緒に宿題をしたり、食事をしたりして生活を送っている。家庭生活の経験が乏しい子どもが多いため、食事時には職員も加わり、学校や宿題のことなどを話題にして、家庭的な雰囲気を作るよう取り組んでいる。幼児棟では、職員と子どもたちとの愛着関係、信頼関係を作ることを大切にしている。また、年齢が上の子どもが小さい子どもの面倒をみるなど、人への思いやりを育むことができるようにしている。

(3) 基本的な生活習慣の自立と、社会的なルールの習得

基本的な生活習慣は、各棟において、職員や年齢の上の子どもから皆に伝えている。子どもたちは、園の中のルール(食事は皆で一緒に食えること、洗濯や掃除などの約束事など)を守って生活している。月1回開催する児童会では、要望や希望、意見、地域や社会のルールなどを話し合っている。児童会では、各部屋のリーダーが主となり、起床時間や休みの日の過ごし方なども取り上げている。

(2) 食生活	第三者 評価結果
<p>① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。</p> <p>□食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。</p>	<p>a</p> <p>○</p>

	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	○
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	
②	<p>子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 少数の児童を対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	○
③	<p>子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。</p>	b
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおよつちの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	○
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	

	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○
(3) 衣生活		
①	<p>衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。</p> <input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが提供され、きちんと着用されるよう細やかな支援をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 衣服は、ほつれ、ほころび、穴等、また汚れがないものが着用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じて、TPOに合わせた服装ができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活場面や活動場面に応じて着替えることのできる衣類を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体に合ったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○
②	<p>子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。</p> <input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	a
	<input type="checkbox"/> 個々の収納スペースを確保するなど、「自分の服である」という所有感を持てるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を購入できる機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、衣服の着脱、整理整頓ができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、選択、アイロンかけ、補修等衣服の自己管理ができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
(4) 住生活		
①	<p>居室等施設全体がきれいに整美されている。</p> <input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	a

	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常的な清掃や大掃除を行い、破損箇所については軽度な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>
②	子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 6人程度の小集団養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭的な環境としてくつろげる空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> リビングに子どもの作品や記念の写真が飾られるなど、子どもが安心していられる場所としての感覚(居がい感)を持てるような配慮がされている。	<input type="radio"/>

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(1) 家庭的な食事の提供、各部屋での調理の実施

子どもたちに提供する食事は、園の職員である栄養士と調理員が担当し、温かいものは温かく、冷たいものは冷たい状態で提供するようにしている。栄養士が作成する「栄養報告書綴り」に、平均カロリーや食事形態などの状況を記載し、小田原保健福祉事務所に内容を報告している。「2週間ごとの献立表」の掲示物を確認することで、子どもたちは食事をとても楽しみにしている。また、子どもたちに「食事に関するアンケート」を実施し、献立に反映している。職員と有志の子どもたちが、調理室からリビングに食事を運び、職員も中に入って一緒に食事をしている。各部屋ごとにテーブルクロスやテーブルの飾りを工夫し、今日あった出来事などをお互いに話し合い、楽しく食事を摂っている。調理担当の職員が毎日輪番で各部屋を回り「部屋調理」を行っている。調理担当の職員が材料を準備し、子どもたちと一緒に調理をしている。鍋料理やお好み焼きなど、自分たちで作って、食べることは大人気で、子どもたちへのアンケートでも「部屋調理」の希望や料理名が多くあがっている。

(2) 中舎制を活用した家庭的な生活

男子棟3部屋、女子棟3部屋、幼児棟2部屋に分かれ、子どもたちは少人数で日常生活を送っている。各部屋には共有のリビングと、プライバシーに配慮したベッドが設置されている。個人の持ち物は自分で管理できるよう、それぞれタンスを置いている。共有のリビングには、大きなテーブルが置かれ、周りには年齢に合った本やおもちゃ、子どもたちの作品などを飾っている。食事はリビングで皆と一緒に食べ、コミュニケーションの場となっている。子どもたちは「みんな一緒に」という方針のもと、職員と子どもたちが常に一緒に生活をする中で、いつでも話を聞いてもらえるという安心感を持てるようにしている。訪問調査当日も、学校から帰った子どもたちがカバンから宿題を出し、リビングで宿題をしている場面が見られた。子どもたちは落ち着いて、安心した表情で机に向かっていた。

(3) 社会生活での食事の機会の提供（課題と感じている点）

各部屋ごとの外食の機会は年2回と決めているが、地域の中での食事の体験を、もう少し増やしたいと考えている。

(5) 健康と安全	第三者 評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
□幼児については、常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員がきちんと把握している。	○
□排泄後の始末と手洗いの支援をしている。	○
□うがいや手洗いの習慣を養うように支援している。	○
□寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、健康管理ができるよう支援している。	
□夜尿のある子どもについて、常に寝具や衣類が清潔に保てるよう支援している。	○
□洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。	○
□必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなど、発達段階に応じた配慮がされている。	○
□定例的に理美容をしている。	○

	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から児童に教えている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所を把握し、職員、子どもに注意喚起が行われている。	○
②	医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症に関する対応マニュアル等を作成し、感染症や食中毒が発生し、又は、まん延しないように必要な措置を講じるよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に子どもの健康管理に努めバイタルチェック等により健康状態を把握している。	○
(6) 性に関する教育		
①	子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢相応で健全な異性とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じた性教育のカリキュラムを用意し、正しい性知識を得る機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(1) 健康状態の把握と医療機関との連携

「身体状況記録」に、子どもたちの身長、体重、排泄、言語その他の問題を記録している。「健康管理シート」には、予防接種の状況や今までにかかった病気、怪我の内容を整理して記録している。診療所の主治医と連携し、5月と10月に、定期健康診断や予防接種を実施している。日常の感染症予防やうがい、手洗いの励行は、子どもたちだけでなく、職員も一緒に行っている。インフルエンザの罹患時などには、一人で安静を保つことができるよう配慮し、子どもにもよく説明して、職員が付き添うようにしている。夜間、発熱などがあった場合には、小田原の夜間救急センターと連携し、受診につなげている。

(2) かけ流しの温泉の活用

園の自慢でもあるお風呂は、すべてかけ流しの温泉であり、子どもたちは毎日、園内の温泉のお風呂を利用している。幼児や、年少の子どもは職員と一緒に入り、浴室内でコミュニケーションを図るようにしている。高学年の子どもたちは、お風呂のルールを守り、順番に入浴して楽しんでいる。また、箱根という場所柄、町営の入浴施設に行き、温泉を楽しんだりすることもある。

(3) 子どもたちへの性に関する教育

子どもたちへの性の教育に向け、4年前から、各棟1人ずつの職員を、県内有志の児童養護施設が集う「性教育情報交換会」に派遣している。中・高校生に対して、生命の誕生の尊さについての話を職員が個別に行っているが、子どもたちの中には、複雑で重い体験をした子どももおり、性教育カリキュラムに基づいた教育だけでは実施できない難しさを感じている。

(7) 自己領域の確保		第三者 評価結果
①	でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> シャンプーなどの日用品は子どもの好みに応じて施設が用意している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> お茶碗や箸は、個別性に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの嗜好を反映させる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 記名やマークが必要な物は、でき得る限り子どもからの許可を得、記名されても子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	<input type="radio"/>

②	成長の記録（アルバム）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
	□子ども一人一人に成長の記録(アルバム)が用意され、個人が保管し、自由に見ることができる。	○
	□成長の記録に空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○
	□可能な子どもとは共に、成長の記録(アルバム)が整理されている。	○
	□成長の記録(アルバム)の整理が、子どもの生い立ちの整理につながっている。	○
	□生い立ちの整理の前後に必要なフォローが適切になされている。	○
	□成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができる。	○
	□子どもが振り返りたい時に、成長の記録(アルバム)をいつでも見ることができる。	○
	□子どもが施設を退所する時に成長記録(アルバム)が手渡されている。	○

(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	a
	□子どもの趣味や興味にあったプログラムになるように子どもの意見を反映させ、適宜改変している。	○
	□子どもが主体的に行事の企画・運営に関わることができる。	○
	□活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○
	□行事等のプログラムに追われることなく、ゆとりある生活が過ごせるよう配慮している。	○
	□行事等の参画について、子ども一人一人の選択を尊重している。	○
②	主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
	□子どもの興味や趣味に合わせて、自発的活動ができるよう工夫している。	○
	□子ども(外国籍の子ども等)の生活文化を保障し、自由に活動ができるようにしている。	○

	<input type="checkbox"/> 学校のクラブ活動への入部は、本人の希望を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域のサークル活動やレクリエーション等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの趣味に応じて、地域の文化・スポーツ活動への参加や習い事を認めている。	○
	<input type="checkbox"/> 図書・雑誌・新聞等、子どもの要望に応じた出版物を備えて、自由に閲覧できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> テレビ・ビデオ・ステレオ等オーディオ機器を備え、子どもの健全な発達に考慮した上で、自由に使用できるようにしている。	○
③	子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 計画的な小遣いの使用等、小遣い帳や通帳を使って金銭の自己管理ができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 無駄遣いをやめ、節約したことによる効果を実感できるようなお金の使い方を体験できるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど経済観念や金銭感覚が身につくよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 小遣いの用途については、子どもの自主性を尊重し、不必要な制限を加えていない。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	
(特に評価が高い点、改善が求められる点)		

(1) 一人ひとりの子どもの成長

高学年の子どもたちは、生活の必需品を自己管理して生活している。幼児棟では、それぞれの持ち物が分かるように、マークを付けるなど職員が工夫している。洋服や小物などは、各自のベッド脇のタンスに入れ、自己管理している。低学年の子どもたちには、自己管理できるよう職員が働きかけている。子どもたちのほとんどが長期間、園で生活していることから、一人ひとりの成長を記録した「アルバム」を作成している。子どもたちは、自分自身の「アルバム」を見ながら、友達との楽しかった思い出などを話している。「アルバム」には、誕生会や部屋調理、遠足、野球大会、外出の行事の写真を貼り、その子らしい「アルバム」となるよう工夫している。

(2) 子どもの自発性、自主性の尊重

園の中の生活ルールは、「強羅暁の星園ルール表」で決めている。「児童が互いにその人格を尊重しあいながら将来の自立に向けて生活ができるよう、一人の社会人として成長するように養育・支援する」理念を示し、子どもたちは「強羅暁の星園ルール表」を守りながら生活している。高学年の子どもたちは、社会人としての基本ルールとして、門限の問題やアルバイトの問題、携帯電話使用の問題などを、月1回の「児童会」で話し合い、職員と一緒に問題を解決している。子どもたちの自主性を重視した支援を行っている。

(3) 余暇活動の支援

園には園庭があり、年末にはもちつきをしたり、地域のマラソン大会の練習をしたりして過ごしている。隣接する白百合学園の校庭では、サッカーや野球を行っている。女子は、クッキーを作ったり、折り紙や毛糸の小物を作成している。暁の星園には図書室があり、そこで本を読んでいる子どももいる。基本的に本人の好きな遊びを行っている。学校の友達と遊ぶことも多い。また、土日には招待行事もあり、食事の招待、ディズニーランドへの招待などへ出掛けている。余暇活動への参加は、子どもたち皆が楽しみにしている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等		第三者 評価結果
①	学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出が無いよう把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 辞書・参考書等学習に必要な書籍を用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、中学生、高校生、大学受験生のための環境づくりなどの配慮をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢や理解力に応じて、自分で学習計画が立てられるなど、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学習指導のため、ボランティアの協力を得ている。	
	<input type="checkbox"/> 進学児童には、家庭教師や地域の学習塾等を活用している。	

	<input type="checkbox"/> 基礎学力の回復に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 公立・私立、全日制・定時制にかかわらず高校進学を保障している。	<input type="radio"/>
②	「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるような相談、支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後の進学についてもでき得る限り支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>
③	職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業主等と密接に連携するなど、職場実習の効果を高めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習に対する実施規程などを作成し、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの希望に応じてアルバイト等就労体験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(1) 学習支援としての公文教室の開催

通常の学習指導は、各棟のリビングで行っているが、小学1年から中学2年までの子どもたちには、一定の時間座って学習に取り組むことができるよう、平成15年から公文学習を土日に行っている。公文学習は、公文の指導者講習を受けている職員が、子どもたちに教えている。最初は算数、数学だけであったが、子どもたちから国語も教えてほしいという希望があり、国語も加えることにした。中学3年になると受験勉強が始まるため、それまでに学習の習慣が身につくようにしている。

(2) 進学、進路指導

5年前から、中学校を卒業する子どもたちは全員、高校に進学している。中学になると職員と進学について話し合いを行い、進路を決めている。子どもたちは、職員からアドバイスをもらい、自分の希望の高校に進学している。また、高校卒業後に専門学校を希望する子どもに対しては、「アフターケアガイドブック」を利用して、各種奨学金制度の情報を提供している。昨年度は1名、今年度も1名が、専門学校に進んでいる。子どもたちはアルバイトを行い、卒業後の生活設計を考えながら学校に通っている。地域のお店でアルバイトをしている子どももいることから、地域とも連携をとりながら支援している。高校卒業後に就職する子どもの中には、アルバイトで人柄が認められて、地域の中で就職をしている子どもが多い。就職活動では、パソコンの技術も必要となるので、施設内で外部の支援団体の協力を得ながらパソコン教室も行っている。

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者 評価結果
<p>① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>問題状況が起こったときは、施設が、問題行動をとった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもたちの安全を図る配慮がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設の日々の生活が持続的に安定したものであることは、子どもの問題行動の軽減に寄与している。また子どもの問題行動が引き起こされた時も、その都度、問題行動によって生じた生活への影響を施設全体で立て直そうと努力している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員の研修等を行い、問題行動に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/>問題行動に対して、放置とならないような対応を行っている。また、子どもの心身を傷つけずに対応するためには、施設内でタイムアウトをとれる支援体制や、児童相談所や警察などによる対応を依頼する体制などに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>くり返し児童相談所、専門医療機関等とケース会議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示している。</p> <p><input type="checkbox"/>大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p>

	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が適切な対応ができるような体制になっている。	○
③	虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a
	<input type="checkbox"/> 強引な引き取りのための対応について職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 引き取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○

(11) 心理的ケア

①	心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置している。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づきその解決に向けた心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における他の専門職との多職種連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(1) 退所後の対応、家庭としての迎え入れ

措置変更や家庭引き取りのケースは少なく、高校や専門学校を卒業して社会人となり退所していく子どもが多い。子どもたちが園を巣立っていく時は、長い間一緒に生活してきた職員や仲間が「卒業を祝う会」を企画し、楽しく食事をしながら一日を過ごしている。広報「暁の星園」には、子どもを社会に送り出す園長の不安や喜び、親としての気持ちが記され、卒業生の言葉として、自分の家のように過ごしていた園を出る寂しさや辛さが記されている。園を巣立った子どもたちは、アパートなどで社会人としての生活を送っている。巣立った子が家に帰るように、園に帰ってきて、ほっと安心ができるように、園では、その子が生活していた時の作品や、絵の上手な職員の描いた似顔絵などを残している。卒業した子が帰ってきたときに、自分の居場所がなく寂しい思いをさせないように、自分のものがあることでほっとできるように、また、園に帰った時にはいつでも、皆と一緒に食事ができるよう配慮している。退所後のアフターケアは、継続して行っていく必要があると考えている。卒業後の職場と連携を取りながら、見守りを続けている。

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
<p>① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を独立した専門職として配置し、その役割を明示している。</p> <p><input type="checkbox"/> 児童相談所の入所依頼があった段階から、施設と家族が信頼関係を構築できるよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭訪問や親との面接などを通じて家族への働きかけを行い、親子関係の継続や修復に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、家族からの不適切なかかわりの発見に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の予定や情報を、家族に随時知らせている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが家族との交流を望む場合、積極的に支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者による「不当に妨げる行為」に対して、適切な対応を行っている。</p>	<p>a</p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。</p>	<p>a</p>

	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅については、規程に基づいて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者を含めたケース会議を定期的に行き、外出や一時帰宅の様子について保護者からフィードバックしてもらっている。	○
	<input type="checkbox"/> 親子が必要な期間一緒に過ごせるような宿泊設備を施設内に設けている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが家族との交流を希望しない場合には、その意思を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 被虐待児など配慮の必要な子どもについては、ケース会議などで検討し、児童相談所と十分な協議の上で、行っている。	○

(2) 家族に対する支援

①	<p>親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 「親子関係の再構築」への取組に当たって、まずケースの総合的な見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みなどを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 最早期に、保護者等への家庭訪問やケース会議などが十分に積み上げ、関係者間の合意形成を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 再構築へとつながる「親子宿泊」や「週末帰宅」などの取組を具体的に、柔軟に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要な親には掃除・洗濯・食事作りなどといった家事や金銭管理などの生活スキルをアドバイスし、親子が一緒に暮らす上での課題のクリアに努めている。	○

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(1) 支援の継続性の重視

入所相談や入所依頼があった段階から、支援の継続性を重視している。「家庭支援日誌」に家族構成の変化や支援経過を記録することで、児童相談所の担当福祉司が交代しても、継続した支援計画を立てられるようにしている。入所後に、家族と連絡が取れなくなってしまうケースもあるため、入所時が、家族と接点をもつ最大のチャンスと認識している。家庭支援担当者が家族に寄り添い、共に考える援助者であることを、家族に理解してもらえよう努力している。家族と職員が話し合っている場面は、子どもにとって、家族と職員双方と信頼関係を構築できる機会と捉えている。退所後の子どもたちに対する継続した生活相談も行われており、退所した子どもの個人ファイルなどは永久保存している。

(2) 家族との関係性と精神的支援

入所後の面会や外出、一時帰宅の記録をとり、頻度や期間を把握している。家族と過ごす前後の、子どもたちの精神的な動きや揺らぎを、多くの目(担当職員だけでなく、各棟指導員や棟フリー職員、全棟指導員、調理員、事務員、園長)で確認し、見守る体制を整えている。一方で、面会や一時帰宅の機会のない子どもの様子にも気を配っている。日常の食事の様子や会話から、子どもの変化を捉えている。園の入浴設備は温泉であり、同性職員との入浴中の会話や様子などからも、子どもたちの心の動きを確認している。

(3) 地域との関係

保護者会には、保護者だけでなく、子どもたちが通っている学校の先生の参加が多い。「地域社会なくして福祉施設はありえない」という法人の理念通り、職員も子どもたちも「地域の中で受け入れられている感、見守られている感」を感じている。登下校時の見守りや声かけをはじめ、隣接グラウンドの利用や、高校生のアルバイト受け入れや就職にも地域の支援が得られている。

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果
<p>① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した子どもの心身の状況や生活状況等の情報を、総合的に分析、検討した課題を適切に把握し、施設が定めた統一した様式によって記録している。</p> <p><input type="checkbox"/> アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 部門を横断した様々な職種の関係職員（種別によって組織以外の関係者も）が参加して、アセスメントに関する協議を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども一人一人の具体的なニーズが明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 様式の中には、子どもの強みや長所など伸ばすことも記載している。</p> <p><input type="checkbox"/> アセスメントは、子どもの担当職員をはじめ、心理療法担当職員、家庭支援専門相談員などが参加するケース会議で合議して行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者（基幹的職員等）を設置している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断した様々な職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握を含んだ手順を定めて実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築されるとともに、機能している。</p> <p><input type="checkbox"/> 児童相談所と援助方針等について打ち合わせ、自立支援計画に反映している。</p> <p><input type="checkbox"/> 策定した自立支援計画を児童相談所に提出し、共有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画には、支援上の課題と、問題解決のための支援目標と、目標達成のための具体的な支援内容・方法を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 支援目標は、子どもに理解できる目標として、表現し、努力目標として子どもに説明し、合意と納得を得ている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。</p>	<p>a</p>

	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、ケース会議の参加職員、子どもや保護者等の意向把握を得るための手順等、施設として仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しにより変更した自立支援計画の内容を関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 計画の見直し時には、支援方法を振り返り、自己評価し、支援の成果について分析、検証を行い、専門性や技術の向上に努め、施設全体の支援の向上に反映させる仕組みを構築している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメントと計画の評価・見直しは、少なくとも半年ごとに定期的に行い、かつ緊急の見直しなど必要に応じて行っている。	○

(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録

①	<p>子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画に基づく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導などの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの強みや長所、あるいは発見などについて配慮しながら記録している。	○
②	<p>子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の記録の保管、保存、廃棄に関する規程等を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等から情報の開示を求められた場合に関する規程を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護と情報開示の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護法を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に守秘義務の遵守を周知している。	○
③	<p>子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○

情報共有を目的として、ケース会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。

○

記録について、パソコンを利用している場合にはネットワークシステム等を利用して、パソコンを利用していない場合には台帳が整備され、施設内で情報を共有する仕組みを作っている。

○

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(1) 多角的なアセスメントの実施

複数の職員の観察や意見、情報は貴重で信頼できるものであり、他機関から得た情報とともに大切にしている。児童相談所からの調査票等の情報や指針、家族から得た情報、職員からの観察をもとに、今までの生活の様子(生活や学習、健康、情緒、人間関係、家族関係、学校での様子)についてアセスメントを行い、課題を整理している。本人や保護者、児童相談所、暁の星園、その他関係機関ごとに、それぞれの課題と目標及び役割を、短期及び長期に分けて、自立支援計画表に記載している。自立支援計画の作成は、担当職員や家庭支援専門相談員による話し合いのもとで作成している。計画は毎年、6月と3月に内容を見直し、年度末の再評価は、次年度の「自立支援計画」に反映している。

(2) 記録の共有と管理、保管

記録類の管理責任者を決め、各種の記録や情報ファイルを置いている部屋は、通常は施錠している。記録類を保管している部屋で、ケース会議や部署会議、職員会議などの話し合いや情報交換を行うため、記録類や情報は、活用しやすいように整理している。「養護日誌」をはじめ、「宿直日誌」、「部署会学童合同記録」、「職員会議録」、「ケース会議録」、「個人ファイル」などを分類、整理して、子どもに関わる全職員で内容を共有している。「養護日誌」の記録は、事実を記載することに留意し、職員の感情で判断した記載は避けるようにしている。子どもの強みや長所、あらたな発見を重視して記録している。その他に、全入所児童への「利用者聴き取り調査」を2年に1回実施し、子どもたちの思いや本音、希望を聴き取っている。また、卒園者の個人記録のファイルは、永久保存し、施錠できる倉庫で保管している。職員は個人情報保護法や守秘義務の遵守について研修を受け、会議の場で周知徹底している。

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
<p>① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止について職員に周知徹底している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているか、振り返り検証する機会が設けられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員相互で子どもの養育に対する姿勢の士気が涵養されている。</p> <p><input type="checkbox"/> プログラムに縛られた生活ではなく、子どもと職員と一緒に生活を展開できるようになっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの利益を考慮し真摯に向き合っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの発達等に応じて、可能な限り事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、子どもの精神発達や個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、適切なフォローを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 家族の情報の中には子どもに知られたくない内容があることも考慮し、場合によっては児童相談所との連携を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。</p>	<p>b</p>

	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等の整備や、施設・設備面での工夫等、組織として具体的に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 居室への立ち入りや手紙の開封等が必要な場合の事前説明と本人の同意等について手続きを定めている。	
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護に関する基本的知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・意識、利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等に基づいた養育・支援が実施されている。	
⑤	<p>子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 施設において宗教的活動を強要していない。	○
	<input type="checkbox"/> 個別的な宗教活動は尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	○
(2) 子どもの意向への配慮		
①	<p>子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの意向に関する調査を定期的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの意向を把握する目的で、子どもへの個別の相談面接や聴取、子どもや保護者との懇談会を定期的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者の意向を把握する目的で、子ども会や保護者会などに出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者の意向に関する調査の担当者・担当部署の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果に基づいて具体的な改善を行っている。	○
②	<p>職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活日課は子どもとの話し合いを通じて策定している。	○
(特に評価が高い点、改善が求められる点)		

(1) 子どもに対する明確な援助方針

誠実（自分の行動と言葉に責任をもつ子）、勤勉（毎日の生活のなかで、忍耐をもって行動する子）、愛徳（自分自身、まわりの人に温かい思いやりをもって大切にする子）という養護目標は、前法人の理念を引き継いでいる。基本方針の児童処遇に、「①児童が健康で安心し、落ち着いた生活ができる環境を整える。②いじめや暴力、体罰のない、みんなが仲良く暮らせる生活づくりを目指す。③将来に目標を持ち自信を持てるよう、児童の能力や趣味をのばす個別処遇の充実を図る。④児童一人ひとりがその状況や発達段階に応じた自立支援計画に沿って養護され、職員との関係を深めることによってその成長を助する。⑤児童に基本的な生活習慣の習得を促し、共同生活のルール、社会的なマナーを学び守れるように育む。⑥子どもの権利条約の内容を理解して実践し、『子どもの意見表明権』や『社会生活への準備支援』の具現化に努める。」をおき、養護計画書に示し、毎年、年度初めに職員間で確認している。

(2) 養護のノウハウの多さとチームワークの良さ

以上の方針に沿った養護のノウハウの多さと、チームワークの良さが自慢である。園内の勉強会だけでなく、ブロック会シンポジウムにも参加し、発表している。職員会議では研修報告の時間を設け、情報交換や意見交換を行い、周知徹底している。会議室では、全部屋の子どもたちの情報が共有できるため、担当職員一人が問題を抱え込まない体制ができている。職員の姿勢は子どもたちの手本となり、子どもたち同士もチームワークが良く、手伝ったり教えあったりする様子がみられる。

(3) 個別の丁寧なかかわり

子どもにとって「生き立ちの整理」をしなくてはいけない時期がある。自分の生き立ちが不明だと、将来への進路を決めるのが難しい場合がある。子どもが、いつ、何を知りたいのか、担当職員と心理職員を中心に、全職員が慎重に対応している。何がしたい、何を食べたい、何を知りたいなど、子どもの意向を確認する場面を設定している。思いや意向を表出することが苦手な子どもが多いため、リーダー会や児童会で意向を表出しやすいように、意向を表出する機会を工夫して設けている。

(3) 入所時の説明等	第三者 評価結果
<p>① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> インターネットを利用して、施設を紹介したホームページを作成し公開している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 見学、体験入所、1日利用等の希望に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設の様子(内容)がわかりやすく紹介された印刷物等を作成し、希望があれば見学にも応じるなど養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行っている。</p>	<p>a</p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 入所時に、養育・支援の内容が具体的に記載された資料を用意して、子どもや保護者等に説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 説明に当たっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設の規則、面会や帰宅などの約束ごとや生活上の留意点等についてわかりやすく説明している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

	<input type="checkbox"/> 子どもの不安を解消し施設生活を理解できるよう配慮し、担当者を決めて適切な援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 入所時の子どもや保護者等への説明を施設が定めた様式に基づき行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 未知の生活への不安を解消し、これからの生活に展望が持てるようにわかりやすく説明している。	○
③	<p>子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、児童の分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、生活する居室が清潔に整えられ、例えば花や歓迎のメッセージカードを添えるなど、温かく迎える準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めている。	○
(4) 権利についての説明		
①	<p>子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で起こる出来事を通して、正しい理解につながるよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料を使用して施設生活の中で守られる権利についてわかりやすく随時説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状態に応じて、権利と義務・責任の関係について、理解できるように説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに、子ども自身がかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに、全ての子どもや大人たちも大切な存在であり、それらの人を悲しめたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境		

①	<p>子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。</p>	a
	<p><input type="checkbox"/>子どもが、複数の相談方法や相談相手の中から自由に選べることを、わかりやすく説明した文書を作成している。</p>	
	<p><input type="checkbox"/>子ども等に、その文書を配布している。</p>	
	<p><input type="checkbox"/>子どもや保護者等に十分に周知し、日常的に相談窓口を明確にした上で、内容をわかりやすい場所に掲示している。</p>	○
	<p><input type="checkbox"/>相談や意見を述べやすいようなスペースに配慮している。</p>	○
	<p><input type="checkbox"/>子どもが自由に意見を表明できるよう、子どもと職員の関係づくりに取り組んでいる。</p>	○
	<p><input type="checkbox"/>普段の子どもの表情や態度からも気持ちや意見を読み取るように取り組んでいる。</p>	○
	<p><input type="checkbox"/>発達段階や能力によって十分に意思を表明することができない子どもに対して、職員が代弁者としての役割を果たすよう努めている。</p>	○
	<p><input type="checkbox"/>日常生活の場面で、面接を実施し、子どもから意見を引き出すよう取り組んでいる。</p>	○
②	<p>苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。</p>	a
	<p><input type="checkbox"/>苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)を整備している。</p>	○
	<p><input type="checkbox"/>苦情解決の仕組みを説明した資料を子どもや保護者等に配布、説明しているとともに、わかりやすく説明した掲示物を掲示している。</p>	○
	<p><input type="checkbox"/>子どもや保護者に対して、苦情記入カードの配布や匿名アンケート実施など子どもや保護者が苦情を申し出やすい工夫を行っている。</p>	○
	<p><input type="checkbox"/>苦情を受け付けて解決を図った記録が適切に保管されている。</p>	○
	<p><input type="checkbox"/>苦情への検討内容や対応策を、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。</p>	○
	<p><input type="checkbox"/>苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮した上で、苦情内容及び解決結果等を公表している。</p>	○
③	<p>子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。</p>	a
	<p><input type="checkbox"/>意見や提案を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について規定したマニュアルを整備している。</p>	○
	<p><input type="checkbox"/>対応マニュアルに沿った取組がなされており、意見や提案のあった子ども等には、検討に時間がかかる場合も状況を速やかに報告している。</p>	○

	<input type="checkbox"/> 対応マニュアルの定期的な見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情や意見等を養育・支援や施設運営の改善に反映している。	○
	<input type="checkbox"/> すぐに対応することが難しいことについても、職員会議等で話し合う等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの希望に応えられない場合には、その理由を丁寧に説明している。	○
(6) 被措置児童等虐待対応		
①	<p>いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記している。	○
	<input type="checkbox"/> 具体的な例を示して体罰等を禁止している。	○
	<input type="checkbox"/> 体罰等があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 体罰等の禁止を職員に徹底するため、日常的に会議等で体罰等を取り上げ、行われていないことを確認している。	○
	<input type="checkbox"/> 体罰等の起こりやすい状況や場面について、研修や話し合いを行い、体罰等を伴わない援助技術を習得できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 自傷行為や他者への加害行為を阻止するための方法について検討し、適切に対応している。	○
②	<p>子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりに迅速に対応できるように、子どもからの訴えやサインを見逃さないよう留意している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの起こりやすい状況や場面について、研修や話し合いを行い、これによらない援助技術を習得できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制(配置や担当の見直し等)を検討している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、密室・死角等の建物構造の点検と改善を行っている。	○

	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつくられている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	○
③	被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、研修会などで職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示している。	○
(7) 他者の尊重		
①	様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子どもの間でトラブルが生じた時、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるようになれるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 上の年齢との関係、同年齢との関係、下の年齢との関係などの人間関係を日常的に経験できる生活環境を用意するなど、人格の尊厳を理解し、自他の権利を尊重して共生できる人間性を育成するよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 小学生や障害児など弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 老人施設への訪問等による異年齢交流や児童養護施設間交流を実施するなど、多くの人たちとのふれあいの機会を可能な限り実行している。	○

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(1) 入所時の配慮

園のパフレットに、「登山電車」や「大文字山」、四季折々の行事の絵を入れ、園周辺の環境の魅力を伝えている。また、「どんなところ? Q&A」で、子どもや保護者が知りたいことを簡潔平易に説明し、入所への不安感を軽減するようにしている。

(2) 話し合いで積み上げられてきたルール

園内の子どもたちのルールは、職員からの一方的な管理や規則ではなく、子どもと職員が話し合いを重ねて積み上げて作っている。ルールは子どもたちの間に浸透し、中高校生が年下の子どもたちに「やらなくてはいけないことだよ」と内容を説明している。

(3) 大切な存在というメッセージ

自分のことを否定的に捉える子どもが多い。日常生活の場面全体で、「子ども一人ひとりが大切な存在」であることが伝わるように関わっている。誕生日のカード作成では、仲間や職員からのメッセージを寄せ書きし、園のみんなで誕生日を祝い、一人ひとりが大切な存在であることを伝えている。

(4) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境作り

相談したい職員を子どもが選ぶことができるように配慮している。担当以外の職員が話を聞くこともできる雰囲気を作り、多くの職員が見守る中で子どもたちを支えている。苦情申し出があった時は、誰からの苦情か、特定されないようにしている。子どもたちからの意見や苦情は、リーダー会や児童会、部署会、職員会議で検討している。子どもたちの意見を尊重し、職員間で話し合う機会を作っている。嫌なことがあったら話ができる仕組みがあることを、子どもたちに伝えるとともに、多くの職員の目を入れ、細かなことも、見逃さない、無視しない体制を作っている。

(5) 他者の尊重

障害を持った子どもも一緒に生活をしているので、手伝いや、心遣いが自然とできる子どもに育っている。大人の職員の姿勢が手本になると考え、職員同士の協力や認め合いを大切にしている。園の中高校校生が小学生や幼児のリーダーとなり、全体を引っ張っていく様子がみられ、園の子どもたちのまとまりが良いのが自慢である。

5 事故防止と安全対策

		第三者 評価結果
①	事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は子どもの安全確保の取組について、リーダーシップを発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安全確保に関する担当者・担当部署を設置し、その担当者等を中心にして、関係職員の参画のもとで定期的に安全確保に関する検討会を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> リスクの種類別に、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生対応マニュアル、衛生管理マニュアル等を作成して職員に周知するとともに、マニュアル類は定期的に見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 不審者の侵入等の緊急時の安全確保の体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設周辺等における不審者等の情報について、日頃から地域や警察等の関係機関と連携して、情報を速やかに把握できる体制をとっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが犯罪や事故の被害から自分を守るため、施設外での行動に当たって遵守すべき事項について支援している。	○

②	<p>災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> グループホームを含め立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類の必要な対策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/> 災害時の対応体制を整えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、全職員に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 食料や備品類などの備蓄リストを作成し、備蓄を進めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地元の消防署、警察、自治会、消防団等と連携するなど工夫して訓練を実施している。</p>	a
③	<p>子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 法令で定められるもののほか、安全対策の一環として建物設備や遊具等の点検を行ったり、施設内外の危険箇所について把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 薬品、刃物、電気製品など危険物の収納管理など、事故を未然に防ぐための取組を組織的にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの安全を脅かす事例の収集を、その仕組みを整備した上で実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 収集した事例について、職員の参画のもとで発生要因を分析し、未然防止策を検討している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 災害や事故発生に備え、危険箇所の点検や避難訓練を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部からの不審者等の侵入防止のための対策や訓練など不測の事態に備えて対応を図るとともに、地域の関係機関等と連携し、必要な協力が得られるよう努めている。</p>	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(1) 柔軟な対応

インフルエンザやノロウイルス流行時には、子どもたちがわかりやすいよう、調理室前の掲示板や各洗面所に、うがいの励行や手洗い方法を掲示し、子どもと職員が一緒になって予防対策を行っている。また、各部屋やリーダー会議で、感染症予防について注意喚起している。予防接種をすすめるとともに、各部屋の温度や湿度管理に留意している。万が一、感染症に罹患した場合は、医務室の個室に病児を移し、看護できるようにしている。普段から、病気にかかった子どもが不安にならないように、職員が傍らに寄り添えるよう、柔軟な職員配置を行っている。

(2) 地域ぐるみでの事故リスクの軽減

事故のリスクを回避するために、園の窓の鍵は2か所に取り付け、屋上への扉は普段は施錠している。日頃から、地域や警察署などの関係機関と連携し、地域の情報を迅速に把握するようにしている。

(3) 子どもたちの防災意識を高める訓練

火事や地震、豪雨、地すべりなどの災害時の対応や体制を整え、毎月、災害の想定を変えながら、訓練を行っている。子どもたちはバディ（二人一組）を組み、互いが助け合って避難する訓練を行っている。バディ相手は、年度初めに子どもたち自身で決めている。チームワークの良さや相手を思いやる心、子どもたち同士に信頼関係があることが、繋がりの前提になっている。子どもたちは、訓練を繰り返すことで、枕元のヘルメットの着用ができるようになったり、落ち着いて行動ができるようになったり、それぞれが成長している。消防署立ち会いの、自治会との合同訓練も行っている。

6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携		第三者 評価結果
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
	<input type="checkbox"/> 個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示し、当該地域の関係機関・団体について、その機関・団体との連携の必要性を含めたリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明する等職員間で情報の共有化が図られている。	○
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体とのネットワーク化に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや家族の支援について、関係機関等と協働して取り組む体制を確立している。	○
	<input type="checkbox"/> ネットワーク内で共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○

	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体ネットワーク内での共通の課題に対して、ケース会議や情報の共有等を行い、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設職員等が要保護児童対策地域協議会などの会議やケース会議等に積極的に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と施設は子どもや家族の情報を相互に提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園、学校との連携を図るために、役員等をしてPTA活動に参加する、学校や幼稚園の行事に積極的に参加する、施設での行事に招待するなどの取組を行っている。	○
③	幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
	<input type="checkbox"/> 幼稚園、小学校、高等学校等との定期的な連絡等の連携を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> PTA活動に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校行事等に保護者と連携をしながら参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学校での様子や課題を適切に把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもについて、必要に応じて施設の援助方針と教育機関の指導方針を互いに確認し合う機会を設けている。	○
(2) 地域との交流		
①	子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域とのかかわり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 活用できる社会資源や地域の情報を収集し、掲示板の利用等で子どもに提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが援助を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るため地域の人々と子どもとの交流会の機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の職員等が町内会や児童会等、地域の諸団体の役員等として活動している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人や施設を支える会、後援会等を組織し、施設の養育・支援の趣旨に賛同した地域の人々から支えられている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の利用者のニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域のボランティア活動の参加や、お祭りなど地域社会の活動へ参加を支援している。	○

	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境作りを行っている。	<input type="radio"/>
②	施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 育児に関する講習会や研修会、地域住民の生活に役立つ講演会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の人々の理解を得ることやコミュニケーションを活発にする取組を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 育児相談窓口、子育て支援サークル等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、仕事内容、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して必要な説明や研修を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の主催行事にボランティアを招くなど、ボランティアに施設をより深く理解してもらう取組をしている。	<input type="radio"/>
(3) 地域支援		
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携に基づき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催する等によって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施すること等を通じて、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 社会的養護の施設の責務を果たすべく、開かれた施設運営を行っている。	<input type="radio"/>
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズに基づいて実施した具体的な事業・活動がある。	

	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズに基づいた具体的な事業・活動を、中・長期計画や事業計画の中に明示している。	
	<input type="checkbox"/> 新たな事業・活動や企画の実施の時には、その利用者等に対して説明し、その意向を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 施設が有する専門性を活用し、地域の子育ての相談・助言や市町村の子育て事業の協力している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の里親支援、子育て支援等に取り組むなど、施設のソーシャルワーク機能を活用し、地域の拠点となる取組を行っている。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(1) 関係機関との連携

小田原児童相談所をはじめ県内5ヶ所の児童相談所と連絡を密にとり、子どもたちを支援している。児童相談所とは、年に1回定期的に業務連絡会を行う他、ケース会議の場を活用して、随時、情報を交換している。また、園の職員が小・中学のPTA役員や地域の子ども会の役員を担い、保育園や学校の保護者会や父母会、三者面談に参加している。箱根町要保護児童対策地域協議会の委員として、実務者委員会や代表者委員会で、児童相談所や民生委員、教育委員会、箱根町子育て支援課と話し合いを行っている。

(2) 地域との交流、連携

「地域社会なくして福祉施設はありえない」という法人の基本理念のもと、地域との交流を活発に行っている。子どもたちは、地域の子ども会行事やレクリエーション大会に多く参加している。また、日曜日には子どもたちが地域の清掃活動を行っている。箱根町強羅は子どもの数が少ない狭い地域なので、特別な相談窓口は設けず、小学校の送迎バスに保護者が集まる時間帯や日頃の地域との関わりの中で、保護者の相談を受け、地域の子育て支援のニーズを把握している。園に遊びにくる地域の子どもも増加している。

(3) ボランティアの受入れ

ボランティア担当の職員を決め、個人及びグループのボランティアの受け入れを行っている。12月のもちつき大会やクリスマス会には、商工会議所や地域の協力がある。保育実習を修了した学生がその後も個人ボランティアとして園を訪れている。毎年、地域の中学校や高校の職業体験学習の受入れも行っている。2年くらい前には、逆に、子どもたちが箱根町社会福祉協議会のボランティア募集で、老人ホームを訪問するボランティア活動を行った。

7 職員の資質向上

		第三者 評価結果
①	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や中・長期計画の中に、組織が職員に求める基本的姿勢や意識を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や中・長期計画の中に、施設が職員に求める専門性や専門資格を明示している。	○
②	職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人一人について、援助技術の水準、知識、専門資格の必要性などを把握している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画に基づき、実際に計画に従った教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内外の研修を体系的、計画的に実施するなど、職員の自己研鑽に必要な環境を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 教育・研修計画には、新任職員研修も含め段階的な教育・研修が設定されている。	○
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
	<input type="checkbox"/> 研修を終了した職員は、報告レポートを作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 研修を終了した職員が、研修内容を報告会などで発表し、共有化する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 報告レポートや発表、当該職員の研修後の業務等によって、研修成果に関する評価・分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 評価・分析された結果を次の研修計画に反映している。	
	<input type="checkbox"/> 評価・分析された結果に基づいて、研修内容やカリキュラムの見直しを行っている。	
④	スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内に研修計画担当職員を配置し、研修計画の体系化を確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修会への派遣等の研修のみならず施設内研修を計画的に実施している。	○

	<input type="checkbox"/> 職員がひとりで問題を抱え込まないように、施設長、基幹的職員などに、いつでも相談できる体制を組織として確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 日々の報告や記録を通して、課題の発見とその克服に向けた問題意識の共有が図れるように、適切に対処していく体制が確立されている。	○
	<input type="checkbox"/> 特定の職員だけが課題を抱え込まないように、チームワークを大切にしながら、養育・支援に努めている。	○
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>(1) 職員研修の計画と実施</p> <p>職員研修は、研修担当が「研修計画」を立案し、参加者の調整を行っている。外部研修は、職員からの希望も聞き、できるだけ参加できるように調整しているが、園が箱根町強羅にあることから、参加が難しいことも多い。職員個々の課題はばらばらなので、職員のモチベーションやニーズに合わせ研修担当が個別に参加を働きかけている。内部研修は、処遇職員向けに定期的開催し、「応急救護」や「公文書の学習」、「スマートフォンの危険性」などをテーマに取り上げている。</p> <p>(2) 園内のスーパービジョンの体制</p> <p>職員が一人で問題を抱え込まないように、日頃から、どの職員にも話ができる、話しやすい雰囲気作りを目指している。朝の申し送りの後にも、雑談のなかで多くの情報が共有されている。また、職員のメンタルヘルスとして、第1・3水曜日に心理担当の職員が必要に応じて相談にあたっている。園長室はいつでも職員が出入りできるよう開放している。一日の業務終了後は、会議室を開放して、職員間のコミュニケーションの場としている。</p>		

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者 評価結果
<p>① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。</p>	a
<input type="checkbox"/> 法人・施設の運営理念が文書(事業計画等の法人・施設内文書や広報誌、パンフレット等)に記載されている。	○
<input type="checkbox"/> 法人・施設の運営理念から、法人・施設が実施する社会的養護の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
<input type="checkbox"/> 法人・施設の運営理念には運営指針を踏まえ、子どもの権利擁護や家庭的養護の推進の視点が盛り込まれ、施設の使命や方向、考え方が反映されている。	○

②	法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 基本方針には、運営指針を踏まえ、子どもの権利擁護や家庭的養護の推進の視点が盛り込まれている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本方針には施設の役割や機能などが具体的に記載されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本方針が文書(事業計画等の法人・施設所内文書や広報誌、パンフレット等)に記載されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人・施設の運営理念との整合性が確保されている。	<input type="checkbox"/>
③	運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針を会議や研修において説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針の周知を目的とした実践テーマを設定して会議等で討議の上で実行している。	<input type="checkbox"/>
④	運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針をわかりやすく説明した資料を作成する等、より理解しやすいような工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある保護者や子どもに対しての周知の方法に工夫や配慮をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に資料をもとに説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	

(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定

①	施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針あるいは質の高い養育・支援の実現に向けた将来像や目標(ビジョン)を明確にしている。	

	<input type="checkbox"/> 実施する社会的養護の養育・支援の内容や、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成等の現状分析を行い、課題や問題点を明らかにしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、課題や問題点の解決に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画に基づく取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の非規模化と地域分散化による家庭的養護の推進を図るため、本体施設は小規模グループケア化するとともに、小規模化し、併せて、家庭的養護の推進に向け、施設機能を地域に分散するグループホームやファミリーホームへの転換を行う移行計画を策定している。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、本体施設が専門的ケアや地域支援の拠点機能を強化し、地域の里親支援や家庭支援を行う体制を充実させる内容になっている。	
②	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画には、小規模化、専門的支援、人材育成、地域支援等、中・長期計画の内容を反映した各年度における事業内容が具体的に示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画は、実行可能かどうか、具体的な活動や数値目標等を設定することによって実施状況の評価を行えるかどうかについて配慮がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画は、前年度の実施状況の把握や評価を踏まえて策定している。	○
③	事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 年度終了時はもとより、年度途中にあっても、あらかじめ定められた時期、手順に基づいて事業計画の実施状況の把握、評価を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果に基づいて各計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 一連の過程が一部の職員だけで行われていない。	○
④	事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 各計画を会議や研修において説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 各計画をメールで配信したり、見やすい場所に掲示するなどの工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 各計画をわかりやすく説明した資料を作成する等によって、より理解しやすいような工夫を行っている。	

	<input type="checkbox"/> 各計画の進捗状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
⑤	事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に各計画をわかりやすく説明した資料を作成する等によって、より理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 各計画を子どもや保護者等に資料をもとに説明している。	
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>(1) 運営理念や基本方針の確立と周知</p> <p>年1回3月に、全職員が参加して「養護計画会議」を開催している。養護計画会議では次年度の養護計画を示し、内容の確認と修正を行い、計画の最終的な決定の場としている。養護計画の冒頭に、園の基本理念や基本方針、重点目標を掲げ、全職員が内容を周知して、同じ視点で子どもたちに統一した支援が提供できるように努めている。毎週水曜日を全職員の出勤日とし、職員会議や部署会議、調理会議、給食会議を開催している。園は子どもたちの生活の場であることから、基本理念や基本方針の掲示はあえて行わず、養護計画書を全職員に配布することで、周知を図っている。また、園の建物は年数も経っているので、中舎制の良さを失うことなく、建て替えなどを視野に入れた中・長期の計画の具体化に取り組んでいく必要があると捉えている。</p>		

(3) 施設長の責任とリーダーシップ		第三者 評価結果
①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、文書化するとともに、会議や研修において表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、広報誌等に掲載して表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害・事故等)における施設長の役割と責任が明確になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるよう自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

②	<p>施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。</p> <p>□施設長は、法令遵守の観点での施設経営に関する研修や勉強会等に参加している。</p> <p>□施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、リスト化する等の取組を行っている。</p> <p>□施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。</p>	a ○ ○ ○
③	<p>施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。</p> <p>□施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。</p> <p>□施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を取り入れるための具体的な取組を行っている。</p> <p>□施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。</p> <p>□施設長は、養育・支援の質の向上について組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>	a ○ ○ ○ ○
④	<p>施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。</p> <p>□施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けて、人事、労務、財務等の面から分析を行っている。</p> <p>□施設長は、組織の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。</p> <p>□施設長は、上記について、組織内に同様の意識を形成するための取組を行っている。</p> <p>□施設長は、経営や業務の効率化や改善のために組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>	a ○ ○ ○ ○

(4) 経営状況の把握

<p>①</p>	<p>施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会的養護の動向について、具体的に把握するための方法を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの数や子どもの状況等について、施設が位置する地域での特徴・変化等を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援のニーズ、潜在的な保護を要する子どもに関するデータ等を収集している。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握された情報やデータが、中・長期計画や各年度の事業計画に反映されている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>②</p>	<p>運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や子どもの数の推移、入所率等の分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 改善に向けた取組が、中・長期計画や各年度の事業計画に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 運営状況や改善すべき課題について、職員に周知し、職員の意見を聞いたり、職員同士の検討の場を設定する等、施設全体で取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>③</p>	<p>外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業規模に応じ、定期的に（2年あるいは5年に1回程度）、外部監査を受けるよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部監査の結果や、公認会計士等による指導や指摘事項に基づいて、運営改善を実施している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p>

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(1) 園長のリーダーシップ

職員のチームワークを大切にするとともに、子どもたちのためになることを実践していくこと、子どもたちを生涯みていくことを、朝の申し送りや職員会議の場で、職員に繰り返し伝えている。子どもたちや職員が、いつでも訪れることができるよう、園長室を常時、開放している。学校から帰ってきた子どもたちが園長室で遊んでいる場面は、とても多いとのことであった。養護計画に職員組織表と業務分掌で業務分担や係分担などを示し、全体を運営会議に相当するメンバーでまとめている。職員が役割を遂行しながら、意見を表出しやすい職場作りを実践している。

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
<p>① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な人材や人員体制に関する基本的な考え方や、人事管理に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉士等の有資格職員や心理職等の専門職の配置等、必要な人材や人員体制について具体的なプランがある。</p> <p><input type="checkbox"/> プランに基づいた人事管理が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取組、人員体制の充実に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が、各職種の専門性や役割を理解し合い、互いに連携して組織として養育・支援に取り組む体制が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 基幹的職員、家庭支援専門相談員、心理療法担当職員、里親支援専門相談員等の専門職員の機能を活かしている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事考課の目的や効果を正しく理解している。</p>	<p>a</p> <p>○</p>

	<input type="checkbox"/> 考課基準を職員に明確に示すことや、結果の職員へのフィードバック等の具体的な方策によって客観性や透明性の確保が図られている。	○
③	<p>職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。</p> <input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の消化率や時間外労働のデータ、疾病状況を定期的にチェックしている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や就業状況チェックの結果を、分析・検討する担当者や担当部署等を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 分析した結果について、改善策を検討する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的なプランに反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面接の機会を設ける等、職員が相談しやすいような組織内の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 希望があれば職員が相談できるように、カウンセラーや専門家と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> 困難なケースの抱え込みの防止や休息の確保などに取り組んでいる。	○
④	<p>職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。</p> <input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、福利厚生センターへの加入等、総合的な福利厚生事業を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の悩み相談窓口を組織内に設置し、又は、関係機関と連携して、解決に向けた体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康に留意し、定期的に健康診断を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 臨床心理士や精神科医などに職員が相談できる窓口を施設内外に確保するなど、職員のメンタルヘルスに留意している。	○
(6) 実習生の受入れ		
①	<p>実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。</p> <input type="checkbox"/> 実習生受入れに関する意義・方針を明文化している。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生受入れに関する意義・方針を会議等で職員に説明し、全職員が理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生の受入れについて、受入れについての連絡窓口、事前説明、オリエンテーションの実施方法等の項目が記載されたマニュアルが整備されている。	○

	<input type="checkbox"/> 受入れに当たっては、学校等との覚書を取り交わす等によって、実習における責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校等と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校等と連携しながら、実習内容全般を計画的に学べるプログラムを策定している。	○
	<input type="checkbox"/> 社会福祉士等の種別に配慮したプログラムを用意している。	○

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(1) 人事管理体制の整備

毎年9月に、園長と職員との個人面接を行っている。職員の就業状況の評価は、園長や全棟指導員、各グループのリーダーの客観的な判断により行っている。以前、担当の職員を替えたことにより、子どもたちが落ち着きをなくしたことがあったことから、現在は担当職員を替えない方針をとっている。職員の福利厚生は、職員の親睦会である「親和会」で、職員旅行やレクリエーション活動を行っている。

(2) 実習生の受入れ

実習開始の1ヶ月くらい前に、「実習の手引き」によりオリエンテーションを行っている。実習生の受入れは多く、平成25年度も、専門学校や短大、大学の保育実習13ヶ所、大学の社会福祉士実習1ヶ所の受入れを行っている。実習は泊まり込みで、各部屋の職員が、毎日、実習生の反省会に参加している。学校との連携を図り、風通しのよい園となるよう、園の職員も学ばせてもらっているという姿勢で実習生の受入れを行っている。

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	a
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法を職員に周知し、共通の認識を持って一定の水準の養育・支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重やプライバシー保護の姿勢が明示されている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法に基づいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

	<input type="checkbox"/> マニュアルは、子どもの状態に応じて職員が個別に柔軟に対応できるものとして いる。	○
②	<p>標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを施設全体で実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。</p> <input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	a
	<input type="checkbox"/> 見直しの時期は、少なくとも1年に1回は検証し、必要な見直しを行う。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法の見直しに当たり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○
(8) 評価と改善の取組		
①	<p>施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。</p> <input type="checkbox"/> 評価に関する担当者・担当部署が設置されている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の参画による評価結果を分析・検討する場が、施設として定められ実行されている。	○
	<input type="checkbox"/> 3年に1回以上第三者評価を受けるとともに、定められた評価基準に基づいて、毎年自己評価を実施している。	○
②	<p>評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。</p> <input type="checkbox"/> 職員の参画により評価結果の分析を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 分析した結果やそれに基づく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善実施計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善実施計画の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて計画の見直しを行っている。	○
(特に評価が高い点、改善が求められる点)		

(1) 標準的な実施方法の確立

子どもたちへの関わり方は、毎朝の申し送りや日々の話し合いの中で、統一した支援を提供できるようにしている。毎月開催する部署会議では、子どもたち全員の状況を確認している。施設間の職員交流実習を行い、他施設での支援のあり方も参考にしている。子どもたちへの日々の関わりを振り返り、自己評価し、次につなげている。これまでは子どもたちとの関わりが少なかった調理職員の声を受け、昨年度から、調理職員と子どもたちが一緒に食事作りを行う「部屋調理」を実施することになった。